



2026年3月24日

各 位

会 社 名 大 幸 薬 品 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 柴 田 高
(コード番号：4574 東証プライム)
問 合 せ 先 経 理 部 長 中 條 亨
(TEL. 06-4391-1123)

上場維持基準への適合に向けた計画（改善期間入り）について

当社は、2025年12月31日（基準日）時点において、プライム市場における上場維持基準に適合しない状態となりました。下記のとおり、上場維持基準への適合に向けた計画を作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況の推移、計画期間及び改善期間

当社は2023年12月31日時点において、プライム市場の上場維持基準のうち「流通株式時価総額」の基準を充たしていませんでしたが、計画に基づく取り組みを進めた結果、2024年12月31日時点において当該基準を充たしていることを確認し、上場維持基準の全ての項目に適合いたしました。

この度、2025年12月末時点において、「流通株式時価総額」がプライム市場の上場維持基準100億円に対して、90億円と適合しない状況となりましたが、2026年12月末までにプライム市場の上場維持基準に適合するべく、各種取り組みを進めてまいります。

		株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式 時価総額 (億円)	流通株式 比率 (%)	1日平均 売買代金 (億円)
当社の適合 状況及び その推移	2023年12月31日時点	16,452	307,546	96	60.9	0.8
	2024年12月31日時点	14,889	312,380	113	61.6	1.0
	2025年12月31日時点	14,853	312,286	90	61.6	0.9
上場維持基準		800	20,000	100	35.0	0.2
適合状況		適合	適合	不適合	適合	適合
計画期間（改善期間）				2026年 12月末		

※当社の適合状況は、東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

なお、「流通株式時価総額」基準について、当社はプライム市場の上場維持基準に適合すべく、後述の各種取組を進めてまいります。次の基準日である2026年12月末までに適合していることが確認できなかった場合

には、東京証券取引所より監理銘柄（確認中）に指定され、その後の審査の結果、整理銘柄に指定され、2027年7月1日にプライム市場での上場が廃止となる可能性があります。

当社は、プライム市場の上場企業として中長期的な視点で企業価値の向上に努めてまいります。今後の事業環境の変化や市況の影響等により計画期間内に適合が困難となる可能性が高まった場合には、スタンダード市場への市場区分変更も選択肢の一つとして検討してまいります。

2. 上場維持基準への適合に向けた取り組みの基本方針

当社は、持続的な事業成長と企業価値向上を通じて資本市場から適正な評価を獲得することが、上場維持基準への適合と中長期的な株主価値向上の双方を実現する最も重要な取り組みであると認識しております。

2025年11月11日に公表した中期経営計画で掲げた成長戦略を推進することで収益基盤の強化と持続的な成長を実現してまいります。また、企業価値向上に向けて、資本コストや株価を意識した経営の推進を重要な経営課題と位置づけ、取り組んでまいります。これらの取り組みを通じて流通株式時価総額の向上を図り、基準達成を目指してまいります。

なお、中期経営計画の詳細につきましては、以下もご参照ください。

[2025年11月11日付「中期経営計画策定に関するお知らせ」](#)

3. 上場維持基準への適合に向けた課題と取り組み内容

流通株式時価総額の上場維持基準への適合に向けては、株式市場における当社株式の評価向上を通じて、時価総額の向上を図ることが重要であると考えております。

そのため、以下の具体的な取り組みを進めてまいります。

（1）医薬品事業の成長に向けた供給及び需要の拡充

中期経営計画においては、医薬品事業への投資集中を図り「供給の拡充」と「需要の拡充」を両輪で力強く進めてまいります。具体的には、2024年度から進めている供給量増加プロジェクトの完遂を目指すとともに、国内外における正露丸ブランドのエクイティ強化を図ってまいります。長期目標に掲げたアジアの胃腸薬市場No. 1を目指し、特に中華圏での成長を加速させ、販売拡大を目指してまいります。

（2）新製品・新規事業への戦略的投資

当社は正露丸やセイロガン糖衣A、クレベリンといったブランド力が強い製品がある一方、新製品の数が少ないという課題がありました。中期経営計画では新製品開発フローの強化を図り、ラップブランドを活かしたブランド・エクステンションによる製品カテゴリーやラインナップ拡張に向けた新製品開発を進めていく計画です。これらの取り組みにより次期中期経営計画においては、新製品売上高比率を高めていく方針でございます。

（3）資本コストを意識した事業ポートフォリオマネジメント

当社は資本コストを意識した事業ポートフォリオマネジメントの強化を進め、収益性の改善を図ってまいります。特にコロナ禍以降の市場縮小により売上が減少した感染管理事業については、セグメント損失が継続しております。中期経営計画では感染管理事業の着実な黒字化に向けて、BtoB領域を感染管理事業の収益基盤とし、市場予測が難しいBtoC領域においては効果的なマーケティング費用の投下等、コストコントロールの強化に努めてまいります。また、2025年9月に制定された浮遊ウイルス低減性能を評価する新規格「JSA-S1021」に当社のクレベリン置き型が適合いたしました。引き続き、商品の信頼性向上施策を継続してまいります。

（4）組織文化の変革と人的資本経営の推進

当社は、「品質経営」を企業活動の根幹に据え、組織文化の変革と人的資本経営を推進してまいります。

人的資本経営の目指す姿は、企業理念である「自立」「共生」「創造」を実践できる組織、人材の育成となります。変化を起点に行動できる人材と持続的な事業成長を支える人的基盤を構築し、組織力の強化を図ってまいります。

(5) 株主還元と IR 活動の強化

当社は、株主還元を経営の重要課題と捉えており、中期経営計画では安定的かつ着実な増配を目指し、DOE(株主資本配当率)をベースとした配当を予定しております。2026年12月期よりDOE2.0%以上、2028年12月期には3.0%以上の配当を目指しております。なお、中期経営計画において2026年12月期より配当を再開する方針としておりましたが、収益力と財務基盤の強化が順調に進捗している状況等を総合的に勘案した結果、配当の再開時期を前倒し、2025年12月期より配当を再開する予定です。今後も成長投資と株主還元の両立に努めてまいります。

また、より多くの投資家の皆様に当社の企業価値や成長性を評価していただけるよう、中期経営計画の進捗をはじめとする情報開示の充実や情報発信の強化等、IR活動の充実に努めてまいります。

4. (ご参考) スタンダード市場の上場審査基準への適合状況

市場区分変更へ向けた形式要件につきまして、2025年12月末時点において、当社試算ではスタンダード市場の上場審査基準(株主数・流通株式数・流通株式時価総額・流通株式比率)のすべてを充足しており、あわせて申請に必要とされる利益基準(利益1億円以上)についても充足しております。

		株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式 時価総額 (億円)	流通株式 比率 (%)
当社の適合 状況	2025年12月31日時点	14,853	312,286	90	61.6
上場維持基準		400	2,000	10	25.0
適合状況		適合	適合	適合	適合

※上記は、東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

以 上